

平成14年11月

各位

第8回 経営トップ向けセミナー

株式会社日本総合研究所
研究事業本部

IT（情報技術）を活用した経営モデル革新 セミナー

拝啓

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

弊社では、かねてより「経営とIT」の係わりに焦点を当て、現代の企業におけるビジネスシステム戦略の重要性に基づき、広く経営者の方々に研究成果を提案させて頂いて参りました。今回はその一環として、「ITを活用した経営モデル革新」をテーマに、「普遍的なマネジメントの仕組み構築とERPの有効活用」に関する経営トップ向けセミナーを企画致しました。

さて、デフレ経済下の厳しい経済環境の中で、日本型経営すなわち曖昧かつスピード感の欠如した経営に対し、革命的な出直しが求められています。すなわち、信頼性、客観性、効率性を備えたマネジメントサイクルを実現する経営モデルの確立です。このような経営モデルは、いわば普遍的な企業の仕組みであり、今後、企業として生き残り、かつ成長していくためには、充たすべき最低限の要件と考えます。このような抜本的な経営モデル革新には、先進ITの有効活用が必要であり、経営モデル革新とIT戦略を有機的かつ統合的に策定、実行してこそ、実現することが可能と考えます。

本セミナーでは、日本型経営の問題点を踏まえ、信頼性、客観性、効率性の観点から、普遍的に有効な経営モデルのあり方を示すとともに、ITの有効活用を可能とする経営モデル革新の進め方について提案させて頂きます。

なお、本セミナーは経営トップ向けに企画致しました。経営トップ及び経営幹部自らのご参加をお待ち致しております。

敬具

セミナー実施要領

1. 日 時 平成14年12月6日（金） 13:30～16:30
2. 会 場 東京都千代田区一番町16番
株式会社 日本総合研究所 1階セミナールーム
営団半蔵門線半蔵門駅より徒歩3分 営団有楽町線麴町駅より徒歩7分
TEL. 03-3288-5345
3. 主 催 株式会社日本総合研究所 研究事業本部
4. 講 師 裏面参照
5. 対象者 社長、経営企画部門長、経理部門長、情報システム部門長他経営幹部の方々
受講に際して特に情報技術に関する詳細知識は必要としません。
6. 受講料 5,000円（資料代）
7. 定 員 30名



日本総研
The Japan Research Institute, Limited

セミナー実施内容

[セミナー講師]

兼為 勇次郎 弊社上席主任研究員・ビジネスシステム戦略クラスター長
ビジネスシステム戦略を総括テーマとした経営コンサルティングに従事している。

経営総合診断、ビジネスモデル革新、経営改革、業務改革、ビジネスプロセス・リエンジニアリング、情報戦略策定、情報システム再構築など多数のプロジェクトを手がけている。

谷口 勝則 弊社主任研究員・公認会計士

グループ経営等における管理会計制度設計や業務BPRを専門とし、かつERP導入の経験を通して、ITを利用した制度・業務改革を実現するビジネスシステム戦略に係るコンサルティングに従事している。

[セミナーの主な内容]

1. 日本企業が直面している問題の本質と新経営モデル確立の必要性
 - ・ 経営環境は競争激化の方向にあり存続企業の選別が始まる
 - ・ 日本型経営システムの限界と有効な経営モデルのあり方
 - ・ 経営モデル刷新に果たすITの役割
2. 経営モデル革新の進め方
 - ・ 経営モデル革新とIT戦略の統合的な進め方
 - ・ プロジェクト組織体制と人材投入
 - ・ プロジェクトマネジメントのポイント
3. 効率的な経営モデルの確立
 - ・ 選択と集中による効率的な経営モデルの実現
 - ・ BPR（ビジネスプロセスリエンジニアリング）による効率経営の追求
 - ・ 決算早期化とスピード経営の追求
 - ・ 支援・間接部門のスリム化
4. 信頼性のある経営モデルの確立
 - ・ 不透明な経営管理体制の刷新
 - ・ マネジメントの信頼性を担保するコーポレートガバナンス
 - ・ モニタリング手法としての内部牽制制度の確立
5. 客観的な経営モデルの確立
 - ・ 管理会計の重要性増大（会計制度改正、会計の役割変化）
 - ・ 適切な事業採算評価と組織業績評価の視点
 - ・ 客観的な評価指標として望ましい経営管理指標の選択
 - ・ 複合的な評価視点としてのバランススコアカード経営
 - ・ 間接業務改革のためのアクティビティベースドマネジメント
6. 経営モデルを支えるITの有効活用
 - ・ IT戦略の動向 — ERPパッケージ利用の現状
 - ・ ERPパッケージの本質
 - ・ ITを活用した経営モデル革新成功のポイント



なぜ今、経営モデル革新が必要なのか

日本型経営に求められる革命的な出直し

デフレ経済下の厳しい経済環境の中で、日本型経営すなわち日本企業が抱える曖昧、かつスピード感の欠如した経営に対し、革命的な出直しが求められています。

経営モデル革新－普遍的に有効な経営モデルの追求

企業はPLAN(計画)－DO(実行)－SEE(評価)というマネジメントサイクルを如何に迅速かつ効果的にまわしていくかが重要ですが、その前提として、マネジメント自体の信頼性を担保するコーポレートガバナンス及び各組織、業務をいかに牽制し、モニタリングしていくかという内部監査の仕組みの構築が重要となります。

さらに、曖昧な経営を脱却し、より客観的に説明可能な経営を行っていくために、各種管理会計の仕組みを導入することも喫緊の課題であるといえるでしょう。企業戦略は業種や個々の企業によって、またその時代云々で異なることは当然であるとしても、普遍的に有効な経営モデル－信頼性、客観性、効率性を備えたマネジメントサイクルを実現する経営の仕組みは存在するのです。

ITの有効活用－経営モデルを支えるプラットフォームとしてのERPの活用

経営を支えるITの重要性は徐々に認識されており、我が国でもERPの導入が盛んに行われています。今や経営モデルを支えるプラットフォームとしてのERP/パッケージの利用は一般的といえるでしょう。しかしながら、ERPパッケージの導入自体が目的化しており、ERPのもつ本来の思想、すなわちマネジメントサイクルを有効に機能させるという観点から見たとき、未だ十分に活用されていない実状があります。

標準的なプロジェクト推進プロセス

- 成功のポイントはまず基本構想を策定し経営者に意思決定をしていただくことです。
－経営課題、業務課題、システム課題をどのように融合して解決するのか。
- 実行に当たっては経営改革・業務改革とシステム構築を併行して進めます。
- システム構築はERPなどの標準システムを活用してユーザ主導で進めます。

